

議事概要 令和6年度第2回益田市ひとづくり推進本部会議

日 時 令和7年3月24日（月）14：00～16：30

場 所 益田市立保健センター 大ホール

出席者 【ひとづくり推進本部】

山本市長、河上副市長、領家教育長

石川政策企画局長、齋藤総務部長、和崎福祉環境部長、塩満福祉環境部次長

梅津産業経済部長、長嶺教育部長

【ひとづくり推進委員】

岡崎協働のひとづくり推進課長、田原政策企画課長

田原連携のまちづくり推進課長、志田原子ども福祉課長、大庭福祉総務課課長

松本産業支援センター所長、田原学校教育課長、杉原学力育成推進室長

【ひとづくりプロジェクトチーム（以下、PT）メンバー】

【事務局】

協働のひとづくり推進課・政策企画課

開会（本部長あいさつの概要）

- ・各部署において、各々の業務がある中で、「ひとづくり」に取り組んでいることに感謝する。
- ・益田市の「ひとづくり」を他市と差別化できる要素、コアコンピタンスとしていくため、地域の方々の想いを踏まえ、対話による関係機関等との連携を進めてほしい。
- ・プロジェクトチームが企画した研修に参加し、2年目職員と意見交換をする中で、大切なことは繰り返し伝えていかなければ定着しないと感じたので、今後も継続的に取り組んでほしい。

議 事

（1）令和6年度上期の取組状況報告について

①未来の担い手部会 <資料1-1のとおり説明>

【質疑応答】

本部

令和6年度の活動にあたり、これまででない取組や成果があれば教えてほしい。

推進委員

未来の担い手コンソーシアムの内容を精査し、「見える化」に取り組んだ。具体的な仕掛けとしては、担当者会議を設置したことで、その結果、コンソーシアムで共有されたライフキャリアプログラム数が増加した。（※令和6年度：39件 / 令和5年度 24件）

本部

保幼子小の取組に関し、取り組んだことにより小学校への接続がスムーズになったか教えてほしい。

推進委員

取組については、毎年改善を重ねている。この取組は保育園や小学校の担当教員等との関りが非常に強く、担当者が変わることによる影響も大きいという状況があった。今回はそうした点に注意を払い、組織としての対応を意識し、保育園や学校側の管理職も含めた研

修を行った。その成果は確実に出ていていると考えている。

②産業の担い手部会＜資料 1-2 のとおり説明＞

【質疑応答】

本部

大学生向け企業見学ツアーの参加者が多くなかったことについて、その原因や今後の対策を示してほしい。

推進委員

この事業はツナガル事業とも関連してくるもので、ツアーについては「ますだより」を活用した。また、各支援機関を通じての情報提供も行ったが、この部分が足りなかったと考えている。令和 7 年度においては、広島県の支援機関のメンバーとの繋がりを活かし、学生への周知を図っていききたい。

本部

高校生の管内就職率が低下している要因や、分析結果があれば教えてほしい。

また、報告内容が中西中学校と翔陽高校に焦点を当てたものとなっている理由を教えてください。

推進委員

管内就職率の低下については、翔陽高校の電子機械科の学生が県外へ流れたことが大きい。

P T

また、多面的機能支払活動において、中西中学校と翔陽高校が対象となっていることから、この 2 校に焦点をあてたものとなっている。

③地域の担い手部会＜資料 1-3 のとおり説明＞

【質疑応答】

本部

美作大学の連携協定の成果について、詳しく教えてほしい。

推進委員

2 名の学生の受入れを行った。また、人材の確保に関して、1 名が益田市の職員として採用された（令和 7 年 4 月 1 日採用）。

本部

職員採用は成果の 1 つ。一方で大正大学は採用がなかった。公務員志望が低調なのもあるが、結果に繋がらなかったのは残念。

推進委員

大正大学との連携については、毎年実習生の受入れを行っているが最終的に個人の意思決定によるところがあり、こちらの努力がそのまま結果に結びつかないところが難しい点だが、今後も関係の構築や学生への周知・PR に努めていきたい。

④ひとづくり各部会年間スケジュール＜資料 2 のとおり説明＞

※意見等なし

(2) プロジェクトチームの活動報告について<資料3のとおり説明> (スクリーン使用)

【質疑応答】

本部

対話プラスの実施前アンケートについて、例えば「心配だ、憂鬱だ、不安だ」といった意見はなかったか。そういった方に対するフォローはどのような形で行っているか。

P T

アンケートが手元にないため、詳細についてお答えすることはできないが、中には「活動自体に意義を感じられない」といった意見もあった。

引き続き対話を続けていき、この活動に意義があることを理解していただくと同時に、内容の充実を図っていきたい。

本部

「市長との対話」を通じて、繰り返すことが大事だと改めて感じた。新規採用職員へ入庁してすぐの研修の際、「習慣が大事である」という話を強調してするのだが、今回の2年目職員研修の冒頭で確認すると、ほとんどの職員が覚えていなかった。伝わっていると思っても、伝わっていないということがあると感じた。

ビジネス文書でも大事なことは振り返るとあるが、これが本当に必要なことだと改めて感じた。

また、このひとづくりP Tの研修は、P Tメンバー職員の成長や、先輩職員と若手職員を繋げることなど大変意味のあることだと思っており、今後の取組にも期待する。

(3) 「益田市版『ツナガル』事業」・「若者還流・定着促進事業」について

<資料4-1、4-2のとおり説明>

【質疑応答】

本部

令和7年度から配置予定の卒業生還流プランナーの詳細について教えてほしい。

P T

詳細については県からまだ示されていない。新規事業ということもあり、4月に入ってから示されるのではないかと考えている。

本部

この事業の持ち味は、東京・大阪拠点をもち、そこでアプローチするということだったが、その点の総括はどうか。

また、学生の就職状況について、やはり首都圏の企業の求心力が強く、なかなか島根に戻ってくるのは社会情勢的にも難しいというところで、他とは違うアプローチ・手法が必要だと思う。

推進委員

県との調整の中で、県外に出た人の住所や連絡先等を把握できないのかという話がこれまでもあったが、今の社会情勢的に難しかった。その結果、各拠点で人が集まりにくい状況になってしまったという反省ある。

今後は学生の意見も把握しつつ、市内就職に向けて進めていきたい。

推進委員

この事業は全庁的な取組で行っていることも評価の一つだったが、中には縦割りで繋がっていなかったというのがあった。地元体験プログラムの情報発信がそれで、今後は政策・連携・産業で調整しながら取り組んでいきたい。

本部

この事業は国や県の交付金を活用した事業であるが、こうした交付金等を活用することに関して注意してもらいたいことがある。

本来、財政状況が厳しい中で「これをやりたい」という思いがあって交付金などの財源を確保しなければならない。財源があったので何かするということがないようにしていただきたい。

(4) ひとが育ち輝くまち益田 夏フェス<資料5のとおり説明>

【質疑応答】

本部

保護者の方をターゲットにすることに関しては明確な目標で良いことだと思う。

また、昨年、島根大学や県立大学を訪問した際、夏フェスの話になった。資料を見せたところ、あらかじめの情報提供があれば、宿泊もしながら参加してみたいという声を幾つかの研究室からいただいたところ。親子ターゲットではないが、益田市の「ひとづくり」を進めるにあたり、推進体制の中で議論し、こうした層もターゲットに加えながら推進してほしい。

推進委員

補足の説明になるが、現在、夏フェスの前後にパワーアップ教室やその他の行事をスケジュールし、情報発信も一体的に行うことも検討している。

(5) ひとづくり推進体制の構成について<資料6>のとおり説明

【質疑応答】

本部

要綱改正ということで、今回の機構改革により福祉環境部次長が医療対策監になることに伴い、第3条関係も変更が必要になってくるため対応すること。

その他

事務局

プロジェクトチームの活動状況については、別紙のとおりとなっている。令和7年度は先ほど報告のあった年間スケジュールに沿って活動していく。